



聖心女子大学

University of the Sacred Heart, Tokyo

2025年度

一般選抜 解答と講評

目次

【3教科A方式】

国語	p. 1
英語	p. 3
歴史総合, 日本史探究	p. 5
歴史総合, 世界史探究	p. 7

【3教科B方式】

国語	p. 9
英語	p. 11
歴史総合, 日本史探究	p. 13
歴史総合, 世界史探究	p. 15

【総合小論文方式2月期】	p. 17
--------------	-------

【総合小論文方式3月期】	p. 20
--------------	-------

一

【解答】

問一 (1) ② (2) ② (3) ⑤ (4) ④ (5) ③

問二 (6) るふ (7) ふつふつ (8) かな (9) さいしょう (10) かんば

【講評】

出題された漢字は、日常的に使用されるものです。問一は、問題文の傍線部と同じ漢字を含むものを、5つの選択肢から選ぶ問題でした。(4)の正答率がやや低かったものの、問一全体としては7割程度できていました。問二は、(8)と(9)の正答率がやや低かったものの、問二全体としては6割程度できていました。大問一は、漢字の読み書きを問うとともに語彙力を問う問題でもあります。日頃から読書などを通して語彙の知識を増やしておくといいでしょう。

二

【解答】

問一 ① 問二 ① 問三 ② 問四 下の講評を参照

問五 ③ 問六 ② 問七 ③

【講評】

全体にできがよかったとは言えません。傍線部の前後だけを見て考えてしまうと、指示対象を探すだけの場合はそれでもよいですが、内容に踏み込んだ問いの場合、正しい答えにたどり着けないことがあります。視野を広くしなければなりません。とくに記述式の問題四がそうです。

問一のポイントは、「この頃」とあるのが何を意味しているか。問二は、佐吉が台所の音に働く自分を重ねています。問三は、「しょっちゅう見て」に注目。問五は、初子の恋の話聞いて佐吉がそう思った、ということではありません。問六は、他の選択肢の中の①「愚直」、③「成り上がった」、④「運の良さ」が不適当。問七の他の選択肢の作者は、①田山花袋、②吉川英治、④島崎藤村、⑤有島武郎。

三

【解答】

問一 A ④ B ② C ① 問二 a ⑤ b ④ c ③ d ⑧

問三 (I) ② (II) ④ 問四 (1) ③ (2) ② (3) ② (4) ④ (5) ④ (6) ③

問五 下の講評を参照 問六 ④ 問七 ② 問八 ④

【講評】

問一は基本単語・語句を確認し、問二と問三は文法の基本を確認する問題です。問二のbは低い正答率でした。形容詞の已然形「～けれ」は過去の助動詞「けり」と間違えやすいので要注意です。問四は敬語と文脈から正しく本文が読めているかを問いました。(1)は下に謙譲語があり、(2)(3)は謙譲語です。(4)は下に尊敬語があり、(5)は尊敬語です。(6)は敬語が使われていません。問五は、波線部の直前の姫君の様子と、直後の命婦の発話がポイントです。命婦は、姫君が相応の対応ができるはずの年齢なのに、引っ込み思案で極端に恥ずかしがるので、あきれています。問六は「よも」の意味と文脈から省略されている語句を正しく読み取る問題です。問七も低い正答率でした。②の「直接声をかけるように」が誤りです。命婦はただ光源氏の話の聞くように説得しています。問八は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 a ③ b ③ c ② d ① 問二 下の講評を参照 問三 ② 問四 ①
問五 ② ⑤ (順不同)

【講評】

やや長い文章ですが、全体的によくできていました。問一は語句の意味を問う問題ですが、前後の文脈から類推できます。問二は、プロイセンがナポレオンに敗北した後、男性に求められるものが変化したことを押さえましょう。それまでは男性の戦闘性や祖国を守るための闘争心がことさらに強調されることはなかったのです。問三は、問題の一文にある「戦闘性」や「愛国心」について書かれている段落を選びます。問四は、空欄のすぐ下に「恒常的」という語があります。「恒常的」になる前の段階としてふさわしい語を選びましょう。問五は、全体の論旨を理解できているかどうかをみる問題です。

A方式は従来通り大問3題が出題され、2題は論説文で1題は会話文です。ある程度の長さの文章を読み、要点を把握すること、そして、考えたことを自分の言葉で論理的に説明できる力が要求されます。受験生の皆さんは、日頃から読む・書く・聞く・話すの四技能にわたって英語を使いこなせるように心がけ、語彙、文法をしっかりと体得するようにしましょう。

I.

【解答】

問1 ア. ③ イ. ④ ウ. ⑤ エ. ⑥

問2 1. ② 2. ④ 3. ③ 4. ①

問3 就寝時における適度なストレスですら、その夜の睡眠に影響する可能性がある。

問4 ①

【講評】

寝つきをよくする方法として、科学的見地から就寝時にどのようなことを考えながら寝るのが良いかを紹介した文章です。問1は空所のある文の趣旨を推測して、空所に入るべき単語を選ぶ問題。文章を読むときは書いてある言葉をたどって理解してだけでなく、次にくる言葉を予測するというスキルも、趣旨をきちんと把握するうえで非常に重要です。問2は内容理解の確認。問3は日本語訳。stress—affect—sleepというセンテンスの核となる単語をおさえただけで、それらにニュアンスを加えている修飾語句や助動詞(even, moderate; could)の意味を正確に訳に出せるかがカギになります。問4は色々な意味を持ちうる一つの単語が本文中ではどの意味で使われているかを答える問題です。

II.

【解答】

問1 (A) ① (B) ④ (C) ③ (D) ② (E) ③ (F) ③

問2 (ア) ③ (イ) ① (ウ) ③ (エ) ④ (オ) ③

問3 21) ⑤ 22) ③ 23) ⑨ 24) ① 25) ⑦ 26) ④ 27) ② 28) ⑧

問4 ②

【講評】

会話文の慣用句や語法を問う問題です。日頃から英会話によく馴染んで、日常的によく使う言い回しを体得するようにしましょう。問1は知らない単語や表現であっても、選択肢の中にヒントが見つけられるとよいです。問2(ウ)“run out”で「(供給されるべき物品が)底をつく、なくなる」。普通にだれでも知っている動詞でも、このように副詞と一緒にあって特定の意味を持つ句動詞になるものはよくありますから、辞書で確認しておくとうよいでしょう。問3は会話文の要旨を表す文章の空所補充。選択肢に挙げられている品詞とその語形(動詞

の活用、名詞の数)に注意しながら適語を選びましょう。問4は本文の主題を問う問題です。会話に出てくる個々の話題にとらわれず、この会話で二人が同意するに至った「大事なこと」は何なのか考えて答えましょう。

III.

【解答】

問1 (A) introduction (B) inspiration (C) choice (D) donate (E) produce

問2 (1) ④ (2) ④ (3) ② (4) ② (5) ④

問3 (ア) ③ (イ) ② (ウ) ② (エ) ③

問4 ③, ④ (順不同)

問5 (Answers vary)

【講評】

ホームレスの人たちの肖像画を描いて、その販売収益をホームレスの人たちの支援に充てるというNPO活動について、それがどのように始まり、どのような影響を地域にもたらすことになったかを紹介する文章。問1は派生語を書く問題です。動詞を名詞にするほうが名詞を動詞にするよりハードルが高かったようです。また、“introdaction”や“choise”のようなスペルの間違いを防ぐためには、英語のスペルと発音の関係を学ぶことも役に立ちます。単語の色々な品詞の派生語を覚えることは、読解や作文でも必要になります。問2は成句・慣用句を構成する前置詞や副詞を選ぶ問題。(2) “end up ~ing”で「(当初の思惑と違って)結局～することになる」、(4) “sell for～”で「(いくら値段で)売る」ですが、sellと空所の間長い挿入があるので分かりにくくなっていました。問3はそれぞれの表現に近い意味を選ぶ問題で、どれも文脈をたどれば推測可能です。(ア) “found oneself ~ing”で「(最初からそうするつもりはなかったのに)気が付いたら～していた」。問4は本文の内容についての正誤問題。問5は毎年出題されている英作文問題です。「どんな例があるか」「どんな方策があるか」という二つを答える必要がありますが、方策についてはたとえ問題文で紹介されているようなユニークなものも思いつかなくてもかまいません。むずかしいと思っても諦めないで、書けることを書くことが大事です。コミュニケーションしたいという姿勢を積極的に示すためにも、白紙回答は避けましょう。

(I)

【解答例】

問 1-1 ② 問 1-2 ③ 問 1-3 ①

問 2-1 ①、⑤ (順不同) 問 2-2 ②

【講評】

(I) は、20世紀初頭の日本の産業革命をとりあげ、画像や同時代史料、数量データを用いて、当時の状況を探るという問題でした。歴史の知識に加え、様々な手がかりから正解を導く力の有無を問うています。問 1-1 の正答率は 8 割弱であり、力織機が布を織る機械であることは理解されているようです。一方、女性労働者について問うた問 1-2 と 1-3 の正答率は、背景の理解が不十分であることを窺わせる結果となりました。前者の正答率は 8 割を超えていましたが、後者は 3 割強に過ぎません。また、問 2 ではデータの扱いを苦手とする傾向がみられました。データから貿易の具体的な特徴を読み取る問 2-1 よりも、日本の産業革命の進捗を問うた問 2-2 の正答率 (8 割強) の方が高かったからです。

(II)

【解答例】

問 1-1 ③ 問 1-2 ② 問 1-3 ②

問 2-1 ① 問 2-2 安全保障理事会 (安保理) 問 2-3 ⑤

【講評】

近代・現代の国際秩序に関する問題です。問 1 はウィルソンの十四か条の平和原則について問いました。問 1-1 の誤答では、①「セオドア・ルーズヴェルト」を選んだ人も少なくありませんでした。アメリカ合衆国の歴代大統領とその政策を整理しておきましょう。問 2 は国際連合について問いました。問 2-2 は、世界の動きに関心を持っていれば、ニュースで見たり、聞いたりするはずですが、WHO や PKO などの誤答もみられました。国連に関する基本的な知識は常識として持っておいてほしいです。問 2-3 の正答率は低かったです。加盟した国にバルト三国、北朝鮮と韓国が含まれていることから、冷戦体制の崩壊であると判断できます。冷戦とはどのようなものだったのかを整理しておきましょう。

(III)

【解答例】

問 1 ア 神宮寺 イ 道鏡 ウ 早良 エ 本地垂迹 オ 復古

問 2 (a) ② (b) ④ (c) ① (d) ① (e) ③ (f) ① (g) ② (h) ② (i) ④

問 3 (1) 人間に疫病や凶作などの災厄をもたらすこと。

(2) 行基 (3) 町衆 (4) 壬申の乱 (5) 廃仏毀釈

【講評】

神仏習合に関する文章を読んで解答する問題です。問1の空欄補充は、やや難しい事項が多かったですが、イとエはもう少し出来ていてもよかったと思います。マーク式では(i)の正答率が低かったです。Iの「一向宗」が誤りなので、I・IIともに誤りになります。問3(1)は、史料の冒頭2行を神のしわざと考えれば説明できます。

(IV)

【解答例】

問1 (A) 徳政 (B) 寄進 (C) 大輪田 (D) 津料 (E) 中山 (F) 蝦夷

問2 (a) ④ (b) ④ (c) ② (d) ① (e) ② (f) ① (g) ③

問3 (1) ② (2) ③ (3) ①

【講評】

問1については(F)の解答を「鬼(ヶ島)」「青(ヶ島)」「種(ヶ島)」とする誤答が目立ちました。問2については(f)(g)の正答率が低かったです。また(B)や(E)は「寄進(地系荘園)」や「中山(王)」の「寄進」「中山」のみを記すのが正しい答え方になります。(f)の正答①(杉原紙)は、かつて一部で現在の岐阜県の特産物であるという誤解もあったようですが、現在の学説では兵庫県(近畿地方)の特産物である結論されており、教科書や用語集においてもそのように記されています。

(V)

【解答例】

問1 (ア) 禁中並公家諸法度(「公家諸法度」も可) (イ) 徳川吉宗

(ウ) 公事方御定書(「御定書百箇条」も可) (エ) 相对済し令

(オ) 村請 (カ) 1868 (キ) 五箇条の(御)誓文

問2 (a) ④ (b) ③ (c) ③ (d) ④ (e) ① (f) ②

問3 (あ) ② (い) ① (う) ③

【講評】

記述式の設問では、(ウ)の解答を「御成敗式目」とする解答が目立ちました。各時代の法制度、政治史を混同しないように注意してください。(ア)は「公家諸法度」も略称として認め、正答としました。

マーク式の問2は寛政の改革を問う(b)の正答率が低く、誤答として①と④を選ぶ割合が高かったです。寛政異学の禁は、藩校における朱子学以外の学派の教授を禁止していません。また、④風俗取締令は天保改革で実施されたものです。同じく問2の政体書に関する(f)は、誤答として③を選ぶ割合が比較的高い傾向です。政体書には、太政官への権力の集中も盛り込まれています。

(I)

【解答例】

問 1-1 ② 問 1-2 ③ 問 1-3 ①

問 2-1 ①、⑤ (順不同) 問 2-2 ②

【講評】

(I) は、20世紀初頭の日本の産業革命をとりあげ、画像や同時代史料、数量データを用いて、当時の状況を探るという問題でした。歴史の知識に加え、様々な手がかりから正解を導く力の有無を問うています。問 1-1 の正答率は 8 割弱であり、力織機が布を織る機械であることは理解されているようです。一方、女性労働者について問うた問 1-2 と 1-3 の正答率は、背景の理解が不十分であることを窺わせる結果となりました。前者の正答率は 8 割を超えていましたが、後者は 3 割強に過ぎません。また、問 2 ではデータの扱いを苦手とする傾向がみられました。データから貿易の具体的な特徴を読み取る問 2-1 よりも、日本の産業革命の進捗を問うた問 2-2 の正答率 (8 割強) の方が高かったからです。

(II)

【解答例】

問 1-1 ③ 問 1-2 ② 問 1-3 ②

問 2-1 ① 問 2-2 安全保障理事会 (安保理) 問 2-3 ⑤

【講評】

近代・現代の国際秩序に関する問題です。問 1 はウィルソンの十四か条の平和原則について問いました。問 1-1 の誤答では、①「セオドア・ルーズヴェルト」を選んだ人も少なくありませんでした。アメリカ合衆国の歴代大統領とその政策を整理しておきましょう。問 2 は国際連合について問いました。問 2-2 は、世界の動きに関心を持っていれば、ニュースで見たり、聞いたりするはずですが、WHO や PKO などの誤答もみられました。国連に関する基本的な知識は常識として持っておいてほしいです。問 2-3 の正答率は低かったです。加盟した国にバルト三国、北朝鮮と韓国が含まれていることから、冷戦体制の崩壊であると判断できます。冷戦とはどのようなものだったのかを整理しておきましょう。

(III)

【解答例】

問 1-1 ② 問 1-2 ④ 問 1-3 アレクサンドロス 問 2-1 ① 問 2-2 ペルシア戦争

問 3-1 ① 問 3-2 ③ 問 4-1 ゴロアスター教 問 4-2 ② 問 4-3 ③

【講評】

(Ⅲ) ではアケメネス朝の統治・軍事活動・宗教などを問いました。世界史探究の教科書で比較的早く登場する時代についての問題は例年正答率が高い傾向にありますが、今年度も同様でした。記述式とマーク式のいずれの問題も全体的にとっても高い正答率でした。アケメネス朝と戦った騎馬遊牧民を選ぶ問 2-1 は予想より低めの正答率でした。

(Ⅳ)

【解答例】

問 1-1 ①、⑤ (順不同) 問 1-2 ②

問 2-1 ①、② (順不同) 問 2-2 スコラ 問 2-3 ④ 問 2-4 パリ大学

問 3-1 金属の活字を組んで版を作り、インクをぬって紙にプレスする印刷法

問 3-2 ② 問 3-3 ②

【講評】

基本的な事項は押さえつつも、やや突っ込んだ、特に宗教関係の設問には苦戦する傾向があるようです。たとえば問 1-2 や、②が正解の問 2-1 です。問 3-2 は『デカメロン』が黒死病の時代を舞台にした作品であることを思い出せば解けます。最後に、多くの受験者にとって「活字」という単語がいまや未知であることを示した問 3-1 の結果には、大げさに言えばショックを受けました。

(Ⅴ)

【解答例】

問 1 バラ戦争 問 2 ③ 問 3 イサベル 問 4 ① 問 5 レコンキスタ

問 6 ヘンリ 8 世 問 7 ② 問 8 ③ 問 9 ネーデルラント 問 10 ④

問 11 無敵艦隊／アルマダ 問 12 ③

【講評】

中世から近世にかけてのイギリスとスペインに関する問題です。全体的に良くできており、特に問 2 の王朝名と問 4 のイスラーム勢力最後の拠点の正答率が 70%以上でした。それに対し、スペインから独立を宣言した地域の名称をたずねた問 9 は、現在の日本語の国名とは異なるためか、やや難しかったようです。問 8 と問 10 も正答率 50%程度とやや低めでした。スペインはフェリペ 2 世の時代に領土を拡大しましたが、財政再建には失敗しています。

一

【解答】

問一 (1) 担 (2) 転嫁 (3) 考証 (4) 傘下 (5) 傍若無人

問二 (6) がじょう (7) さいぎしん (8) いたず (9) こうしど (10) おびや

【講評】

出題された漢字は、日常的に使用されるものです。問一は(3)と(5)の正答率が低く、問一全体の正答率は5割程度でした。問二は(7)と(8)の正答率が低かったものの、問二全体としては6割程度できていました。大問一は、漢字の読み書きを問うとともに語彙力を問う問題でもあります。日頃から読書などを通して語彙の知識を増やしておくといいでしょう。なお、解答は、点画をはっきりと大きく、丁寧に書くよう心掛けてください。

二

【解答】

問一 ③ 問二 ① 問三 ⑤ 問四 ④ 問五 あかちゃん 問六 ②

問七 戸口を閉め～しかける。 問八 ③

【講評】

問一と問二は高い正答率でした。問三は、酒の量をごまかすとはつまり選択肢①②③のようにすることです。残る④⑤から答えを選びます。問四は、幸代さんが「笑顔」という言葉に「客を気分よく飲食させる」意味を込めていることを読み取りたい。問五はよくできていました。問六は、本文中に書かれていない事柄を含んでいたら、その選択肢を排除しましょう。問七は、ふつう「、」があるはずのところに「、」がない箇所を探します。「と答えるけど～落ちるみたいになって」がそれで、ここを含む「一文」を抜き出します。問八は文学史の基本的な事項です。

三

【解答】

問一 A ④ B ② 問二 a ① b ② c ⑤ d ③ e ④

問三 イ ③ ロ ② ハ ② ニ ④

問四 (1) ② (2) ② (3) ③ (4) ⑤ (5) ① (6) ② 問五 もてあがめて後見だつ

問六 ① ③ (順不同) 問七 ③

【講評】

問一は基本単語・語句を確認し、問二と問三は文法の基本を確認する問題です。問三のハは正答率がやや低かったです。「よからずなむあるべき」は「よからざるべし」の「ざる」

に係助詞「なむ」が入り込んだ形で「ず」は連用形です。問四は敬語と文脈から正しく本文が読めているかを問いました。(1)は敬語が使われていません。(2)は下に謙讓語「たまふ(下二段)」があり、(3)(4)は下に尊敬語「たまふ(四段)」があります。(5)は尊敬語で、(6)は謙讓語です。問五は、問題文の最後にある、少将の長々とした苦情がポイントです。少将は常陸介が大切に世話してくれることを期待して婿になりたかったのです。問六は①の「常陸介一家の内情を詳しく語る誠実な対応」と③の「常陸介の婿になることには変わらないと納得をした」が誤りです。仲人は言い訳をし、少将は納得していません。問七は基本的な文学史の問題です。

四

【解答】

問一 a ① b ③ c ② 問二 ⑥

問三 環境をコントロールしている主体

問四 A ① B ① C ② D ① E ② F ② G ①

問五 ① ④ (順不同)

【講評】

やや長い文章でした。問一は語句の意味を問う問題、問二は四字熟語を選ぶ問題でした。言葉の知識だけでなく、文脈から判断する力が必要です。問一はよくできていましたが、四字熟語は選択肢が多かったため少し難しかったようです。解答が分散しました。問三は文字数が決まっているので、ゆっくり探して抜き出せば見つかります。よくできていました。問四は、外から発生する動機と内から発生する動機を整理する問題です。こちらもよくできていました。問五は総まとめ問題です。

2025年度 一般選抜3教科B方式 「英語」

B方式は前年度同様、大問3題が出題されました。2題は論説文で、1題は語法・文法を問う問題が出題されています。マークシートで答える問題が多くありますが、A方式同様、日頃から一定の分量の英語を読み、正確に要点を掴む力を養うとともに、基本的な語彙文法力を身につけておきましょう。

I.

【解答】

問1 (A) ② (B)④ (C) ③ (D)③ (E) ②

問2 (1) ② (2) ④ (3) ①

問3 (ア) ② (イ) ③ (ウ) ②

問4 ①

問5 (A) encouraged または told (B) pleasure または comfort
(C) literacy (D) poverty

【講評】

子供の活字離れや識字率の低下という問題について、子供たちが自分の読みたい本を楽しんで読める環境づくりの重要性に焦点を当て、そのために図書館が果たしうる役割を提言する文章です。問1は単語の意味、問2は前置詞や接続詞の用法、問3は文中での動詞の適切な語形、問4は文中の代名詞が何を指しているかを答える問題で、いずれも英文読解の基礎力が試されます。問5は文章全体の要旨を完成するために本文中からキーワードを見つける問題で、全体によくできていました。

II.

【解答】

問1 (A) ③ (B) ① (C) ① (D) ③ (E) ④

問2 (ア) ①, ⑤ (イ) ④, ② (ウ) ②, ① (エ) ①, ③

問3 (1) ④ (2) ④ (3) ④ (4) ① (5) ②

問4 (a) ② (b) ② (c) ① (d) ② (e) ①

問5 人々が一緒になって何か良いことをするのは素晴らしいことだ。

【講評】

オランダのユトレヒト市を流れる運河を毎年夏に遡上してくる魚たちにとって、運河の途中に設置された水門(魚たちの都合でなく、通行する船の都合で開け閉めされる)が障害になる問題への対策として、水門付近の水中の様子がライブカメラで24時間観察可能なウェブサイトを作って、世界中誰でも、魚たちが来ているのを見つけた人にベルを鳴らしてもらって水門管理者にそのことを知らせるシステムが考案されたという話。問1は単語の意

味、問2は並べ替え、問3は空所を適切な語で補う問題です。問2(イ)の正しい並べ替えは about the challenges fish face when ですが、challenges のあとの関係代名詞が省略されていることもあってか、正答率が特に低かったです。問4は大体よくできていました。ただし(d)を正しいとした人が過半数いました。文中では将来起こりうる可能性として書かれていること(“until that happens”に注意)を、すでに実現したことと取り違えてしまったのだと思います。問5は英文和訳問題。最初の It は後の when 以下の内容を指す形式主語なので「それは」と訳してはいけません。come together は文字通りに同じ場所に同じ時間に「一緒に来る」わけではなく、一つの目的のために「一緒に力を合わせる」というニュアンスです。beautiful は多くの人が「美しい」と訳していましたが、“very good”という意味でも普通に使われるので、簡単な単語でも意味を柔軟に理解して覚えられるとよいでしょう。

III.

【解答】

- A. (1) ② (2) ② (3) ③ (4) ④ (5) ② (6) ① (7) ② (8) ③ (9) ③
(10) ② (11) ③ (12) ① (13) ② (14) ③ (15) ③
- B. (1) ① (2) ④ (3) ② (4) ① (5) ① (6) ④

【講評】

文法・語法・慣用句に関する問題です。全体に B よりも A のほうがハードルが高かったようです。意識して英語の慣用句、コロケーションを例文とともに覚える努力が必要です。

(I)

【解答例】

問1 ③ 問2 ② 問3 ① 問4 ① 問5 ④

【講評】

日清・日露戦争の影響に関する問題です。問1はやや正答率が低かったですが、③の「脱亜論」が正解です。重要な史料は教科書や資料集で内容を理解しておきましょう。問2は正答率が高く、下関条約の内容をよく読みとれていました。問3は、旅順・大連を租借したのはロシアですから、①が正解です。やや正答率が低かったですが、これは日露戦争にもつながる出来事です。歴史の流れでつかむようにしましょう。問5はポーツマス条約の条文ですが、日露戦争がどのような原因で起きたかを理解していれば、正解を導けます。

(II)

【解答例】

問1 ① 問2 世界恐慌(大恐慌)、1929年 問3 ② 問4 ① 問5 ③

【講評】

(II)のテーマは戦間期の経済です。第一次世界大戦の終結後、ヨーロッパ経済は立ち直りを見せませんが、世界恐慌が大きなダメージを与えました。問1の正答率は8割あり、問2の記述問題も、概ね正解していましたが、時代の流れは把握できています。しかし、その後の不況と各国の対応については十分に整理できていない印象を受けました。問3の正答率は8割を超えていますが、問4の正答率は4割弱であり、問5は5割台でした。金本位制から離脱すると、通貨の価値が下がり、輸出が好調になるという理屈は難しいかもしれませんが、ぜひ理解しておいてほしいところです。

(III)

【解答例】

問1 ア 富本銭 イ 和同開珎 ウ 平家(平氏、平清盛) エ 寛永 オ 新貨

問2 (a) ③ (b) ① (c) ④ (d) ② (e) ③ (f) ④ (g) ① (h) ④ (i) ②

(j) ④ (k) ③ (l) ③ (m) ① (n) ④ (o) ②

【講評】

貨幣の歴史に関する文章を読んで解答する問題です。問1の多くは基本的な事項ですが、イの「和同開珎」が意外と出来ていませんでした。問2では(f)はやや正答率が低かったですが、律令制の租税については、品目だけでなく、都に運ばれるかどうかにも注目して整理するとよいでしょう。なお、Eのリード文の年代に誤りがありました。この場を借りてお詫びします。

(IV)

【解答例】

問1 (a) ④ (b) ①または④ (c) ③ (d) ② (e) ③ (f) ① (g) ④ (h) ②

問2 969年

問3 (1)鎌倉幕府は2度の元寇の後も3度目の襲来への警戒を緩めることができず、防備体制も維持せざるをえなかった。実際に防備を担ったのは九州の御家人など在地の武士を中心とする人々であり、負担は彼らに転嫁された。それによる社会的疲弊が鎌倉幕府滅亡の遠因となった。

(2) ② (3) ①

【講評】

問1の(b)は①を正答として想定した作問でしたが、④も正しいので、どちらを選んだ場合も正解としました。また(c)については、初見については9世紀末との説もありますが、一般化したのは10世紀であり、またそれ以外の選択肢は11世紀以降になって史料に現れてくる存在です。

(V)

【解答例】

問1 ア 明正天皇 イ 竹内式部 ウ 伊藤仁斎 エ 石田梅岩 オ 本居宣長
カ 賀茂真淵

問2 (a) ③ (b) ③ (c) ③ (d) ③ (e) ③ (f) ① (g) ③または④

問3 (1) ② (2) ②

【講評】

記述式の問1では、イに「山県大弐」の誤答が見られました。山県大弐は明和事件で死罪となった人物です。その他、(ウ)～(カ)の思想家の名前の問は全体的に誤答が散見されました。各思想家の学問を整理して学びましょう。マーク式の問2では、(b)・(d)の正答率が低かったです。(b)の正答③は「江戸湯島」の「聖堂」、(d)の正答③は「日清戦争」とすると正しい説明となります。(g)の問題文Xにおいて「内治優先論」と表記すべきところを「内地優先論」とする誤記がありました。お詫び申し上げます。Xは征韓論を主張した人物とそれに反対した人物についての理解を問うもので、「正」を意図した出題でしたが、「内治優先論」の説明として見た場合は「誤」となります。そのため、③と④のどちらを選んだ場合も正答としました。問3は(2)を③とする誤答が多かったですが、大教宣布の詔は1870年に出されたものです。(1)は正答率が高かったですが、違勅条約時の天皇は孝明天皇、アメリカ総領事ハリスの要求を受けて調印した条約は日米修好通商条約ですので、絞り込みやすかったのでしょう。なお、安政の五カ国条約には日米修好通商条約も含まれるものの、問3の(1)はアメリカと結んだ条約を選ぶ必要があるので、②が正答です。

(I)

【解答例】

問1 ③ 問2 ② 問3 ① 問4 ① 問5 ④

【講評】

日清・日露戦争の影響に関する問題です。問1はやや正答率が低かったですが、③の「脱亜論」が正解です。重要な史料は教科書や資料集で内容を理解しておきましょう。問2は正答率が高く、下関条約の内容をよく読みとれていました。問3は、旅順・大連を租借したのはロシアですから、①が正解です。やや正答率が低かったですが、これは日露戦争にもつながる出来事です。歴史の流れでつかむようにしましょう。問5はポーツマス条約の条文ですが、日露戦争がどのような原因で起きたかを理解していれば、正解を導けます。

(II)

【解答例】

問1 ① 問2 世界恐慌（大恐慌）、1929年 問3 ② 問4 ① 問5 ③

【講評】

(II)のテーマは戦間期の経済です。第一次世界大戦の終結後、ヨーロッパ経済は立ち直りを見せませんが、世界恐慌が大きなダメージを与えました。問1の正答率は8割あり、問2の記述問題も、概ね正解していましたので、時代の流れは把握できています。しかし、その後の不況と各国の対応については十分に整理できていない印象を受けました。問3の正答率は8割を超えていますが、問4の正答率は4割弱であり、問5は5割台でした。金本位制から離脱すると、通貨の価値が下がり、輸出が好調になるという理屈は難しいかもしれませんが、ぜひ理解しておいてほしいところです。

(III)

【解答例】

問1-1 単于 問1-2 ③ 問1-3 ④ 問2-1 ① 問2-2 ② 問2-3 ③

問3-1 ② 問3-2 ③ 問3-3 絹 問3-4 ②

【講評】

(III)では漢と匈奴の関係および同時代の中央アジアについて問いました。記述式の問題については、比較的よく解けていましたが、問3-3で綿（織物）という解答もありました。マーク式についても、比較的高い正答率でしたが、問1-3は少し難しかったかもしれません。アジア史を学習する際はどうしても中国の諸王朝が中心になりますが、視点をずらして、隣接地域の王朝に着目してみると、違った点からアジア史を捉え直すことができるかもしれません。

(IV)

【解答例】

問 1-1 ①、④ (順不同) 問 1-2 ③

問 2-1 a 余剰生産物 b 定期市 問 2-2 ② 問 2-3 ⑤

問 2-4 教皇庁がアヴィニョンに移されていた

問 3-1 c 主権国家 問 3-2 ④

問 4-1 ロレーヌ地方 問 4-2 ②

【講評】

全体として健闘している印象ですが、主に宗教に関係した設問に苦戦しているようです。問 1-2 の正解③は印象がうすければ、消去法によって到達することが可能です。問 2-2 で問うているのは教会全体の指導者(教皇)ではなく、各地の教会の指導者(司教)です。

(V)

【解答例】

問 1 ④ 問 2 ④ 問 3 ③ 問 4 ③ 問 5 ④ 問 6 ③ 問 7 ④

問 8 ① 問 9 ③ 問 10 ④

問 11 A ヴェルサイユ (宮殿) B タージ=マハル C サンスーシ (宮殿)

D ハギア=ソフィア/セント=ソフィア (聖堂) E サン=ピエトロ (大聖堂)

【講評】

世界各地の歴史的建造物についての問題です。全体的に良くできており、タージ=マハルを建てた君主についての問 3 と、カトリックの総本山の場所をたずねた問 9 は、7 割以上の方が正解していました。例外はサンスーシ宮殿の場所についての問 6 で、正答率は 12% 弱でした。宮殿の名前は知っていても、ベルリンではなく、「ポツダム宣言」で有名な別の都市なので分かりにくかったようです。問 10 の選択肢のうち、ミケランジェロの作品でないのは「モナ=リザ」ですが、正答率が 50% 程度だったので意外でした。

【解答例】

問 1

1. (解答例) 生徒のエージェンシーとは、生徒が自らの人生や周囲の世界に積極的な影響を与える意志と能力を持ち、変化をもたらすために目標を設定し、内省し、責任を持って行動する能力を持つという信念と定義される。
2. (解答例) 生徒たちは、より大きな学習エコシステムの中で、仲間、教師、保護者、地域社会との相互作用的、相互支援的で豊かな関係の中で、有機的な方法で共同エージェンシーを育てていく。
3. 空欄 A (c) 空欄 B (e) 空欄 C (a)
4. (a) ○ (b) × (c) × (d) × (e) ○

問 2

1. (a) × (b) × (c) ○ (d) ○
2. (a) ○ (b) × (c) ○ (d) ×
3. (解答例) 以下のような記述があれば正答。

・資料 2A :

日本が「自分を大人だと思う」「自分は責任のある社会の一員だと思う」「将来の夢を持っている」「自分で国や社会を変えられると思う」「社会課題について家族や友人など周りの人と積極的に議論している」いずれの項目も、他国に比べて低い。

・資料 2B :

単位取得について：自分の興味よりも楽に単位を取れることを重視する人が多くなり、2008 年以降で落単のほうが重視されるように変化した。

単位の系統について：系統だった学びより、自由な選択履修を重視する傾向が強かったが、逆転する傾向にある。

学習方法について：自分で学びを工夫するほうが大学で指導されるより好まれていたが、その傾向が 2016 年から逆転した。

将来決定・設定について：自分でやりたいことを決めて授業をうけるよりも、授業を通じて将来やりたいことを決める傾向がある。

学生生活について：学生生活について自主性を重視しているが、大学の指導・支援を求める傾向が年々強まっている。

就職活動について：自主性よりも大学の指導・支援を求める傾向が強い。

学びについて：答えのない問題を自分なりに探求することを重視する。

知識・技能について：知識・技能の習得は学生自身の責任だとする傾向が強いが大学の責任とする傾向も強まっている。

問3

1. (c) 2. (b) 3. (d)
4. (解答例) 授業内でグループワークを行っても、単なる情報交換や表面的な会話のみが行われ、生徒個人の考えが変わることも、自己の理解が深まることのない状態のこと。

問4 (解答例)

大学での学びとは、単に既存の知識や技能を得るだけでなく、新たな知識やスキルを創造し、自分自身だけでなく、周囲の人や共同体全体の幸福につなげるものである。こうした考えの理由を、大学における学問の本質、知識の社会的影響、そして探究心が持つ可能性の三つの観点から述べる。

まず、大学の学問の本質は、単なる知識の蓄積ではなく、新たな価値の創出にある。【資料4】が述べるように大学は、既存の知識を正しく理解し、活用する力を養うための教育機関ではない。大学では、これまでの知識を基に新しい理論を生み出したり、現実社会に即した問題を解決したりすることが求められる。

次に、大学では、個人の成長だけでなく、社会全体の幸福について考える機会を提供する。現代では多様な人々の価値観が絡み合う問題が山積している。ゴミ問題一つをとっても、捨てる人、ゴミを処理する人、地球環境全体など多様な観点で検討する必要がある。こうした課題には、特定の知識や技能で対処することが難しい。そこで必要になるのは【資料3】での「対話」である。様々な他者と対話して異なる立場の価値観を話したり聞いたりして、自分の考えを変える必要がある。

ただし、【資料2】を踏まえると、こうした主体的な学びを深めたいという学生は減少傾向にあるという。その背景には、他者との対話の中で互いを理解し合う喜びを得る経験が少なくなったこともあるかもしれない。学生である私ができるのは、たとえ主体的な学びを忌避する学生がいても、その人の考えや価値観をまず理解する努力をして、自分の考えも共有することである。【資料1】の共同エージェンシーのように、複雑で多様な価値観が共存する現代では、他者を排除するのではなく、対話することが重要である。大学では、探究の姿勢を育み、自分だけでなく他者とともに幸福を追究する素地を育みたい。

【講評】

今回は、学びと、とりわけ大学での学びに関する4つの資料を読み解き、それらを踏まえて自らの大学での学びの展望を論じてもらうことをねらいとした。

問1は今後の教育の一つのあり方を示した「OECD ラーニング・コンパス 2030」の概要である。受験生にとってはあまりなじみがないためか、英文の読解に苦勞する者が多かったようである。重要なキーワードでもある「Student agency」や「co-agency」などには注で訳をあてたが、イメージをふくらませながら読み込んでいくということに難しさを感じた者が多かったのではないかと思う。とてもよくできた者もいたが、未解答の者も複数おり、平均

点も低かった。

問2はデータ(表)の読み取りである。若者の意識についての国際比較データと2000年代後半から経年で実施された大学生の学習・生活実態についてのデータから日本の若者・大学生の学びへの態度や価値観に関して何が読みとれるかを問うた。問3は、「知識詰め込み型の学習」に対する「構成主義的な学習」について論じられた文章の読解である。本文中のキーワードである「対話」についての理解を問うた。

問2および問3は満点の者もあり、問1と比べて概ねよくできていた。つづく問4はもう一つ、大学と大学での学びをめぐる文章を読み、資料1から4を踏まえて、小論文を作成するものである。満点をつけた者も複数人いたが、指定した文字数に達しない者も多く、時間の配分がうまくいかなかった者もいたのだと思われる。また、資料を踏まえていることを明示しながら論じるということができていない解答も散見された。

全体を通して、トータルに得点を積み重ねた者はあまりおらず、受験生によって設問のタイプによる得手不得手があったのだと考えられる。

【解答例】

問 1

1. c 2. (a) × (b) × (c) × (d) ○ (e) ○

問 2

(解答例) 個人を個人として尊重していないことを批判して、価値観の見直しを求め
るべきである。

問 3

1. (解答例) 複合的差別の概念は、差別が、認識された 1 つ以上の特徴に基づいて生じ
得ることを認識するものである。
2. b
3. (解答例) 年齢、障害、社会的・経済的地位、民族、人種が、女性にとって特別の障壁
になる可能性があることやそれらが共存する形態の差別を認識するための
枠組みが議論された。
4. (a) ○ (b) × (c) ○
5. (解答例) 連続的複合差別は、別の場面で異なる理由の差別を受けること、付加的複合
差別は、同じ場面で 2 つの理由の差別を受けることである。
6. (解答例) 複合的差別は、複数の特徴に基づく差別で、例えば、民族的出自による差別
を受けた人が、性別、性的指向、年齢などによっても差別を受けることである。
新しい概念で、広く受け入れられてはいるものの、法律や法実務に十分に反映
されていない。

問 4

1. フィリピン 2. d 3. (a) ○ (b) × (c) ○ (d) ○ (e) ×
4. (解答例) 男性の方が優遇されていると感じる人の割合は、平成 14 年度から令和元
年度まで一貫して 70% 近くを占めている。令和元年度の男女別内訳によると、
男性が優遇されていると感じる人の割合は、女性の方が高い。

問 5

(下の講評を参照)

【講評】

今回は、「差別」や「偏見」に関する資料を通して、特に差別する側の自覚が伴わない差別
が身近に存在することに気付き、受験者自身の考えを述べてもらうことを意図した出題でし
た。

問 1 は、【資料 1】の内容を正確に読み取れているかを問う選択問題です。正確に読み取れ

た受験者が多く、満点の答案も少なくありませんでした。

問2は、【資料2】の読解が正しくできているかを問う記述問題です。資料の中から適切な箇所を抜き出せば正解を導けるように作問されていることもあり、やはり全体として点数は高く、満点の答案も多くありました。

問3は、【資料3】(ヨーロッパ評議会 (Council of Europe) という国際機構のウェブサイトに掲載されていた英文の記事からの抜粋) に基づく出題です。1. は部分訳の問題で、英語の構文はそれほど複雑ではないものの、抽象度の高い内容であることに加え、高校生にとっては必ずしも馴染みのない用例や日本語に訳すのに一工夫を要する単語も含まれていたため、全体を正確に訳した答案はほとんど見られませんでした。2. は空欄補充、4. は英文の内容理解を問う選択問題であり、いずれも正答が多かったです。3. と5. は、本文の内容を要約し、日本語で答える問題です。6. は、英文全体を読んだうえで、英文のキーワードである「複合的差別」の内容を説明する問題です。記述式問題の3.5.6. では、問題文の中に、英文を読み解くためのヒントにもなるような語が多めに含まれていたことや、各小問の内容が重複していることもあり、1. ～5. に解答できた受験者は、6. でも一定の点を得る傾向にありました。

問4は、【資料4】に掲げられたグラフから必要な情報を読み取ることができているかを問うており、1. ～3. は選択式、4. はグラフから得られる情報を文章で記述する形式です。全体として高得点の答案が多かったのですが、3. で資料からは判断がつかないものを○としたり、記述型の小問4が未解答であったりしたために、得点が低めとなった答案も見られました。

問5は、【資料1】～【資料4】の内容を踏まえながら、「差別しようという意図がないにもかかわらず差別行為が生じてしまう理由」を受験者なりに考えて、論述してもらう問題です。差別の問題は、日常的にも報道等で聞いたり、高等学校の授業の中で扱われたりして、この問題について考えたことがあったり、予備知識を持っていたりする受験者も多いと推測されます。必要十分な文字数に達した答案については、1) 資料の内容を踏まえる、2) 自身の考えを述べるという2つの要求に答えている限り、高得点を得たものがほとんどでした。他方で、予備知識を持っているゆえか、資料にほとんど言及しないまま、自身の考えを述べることに終始したために、得点に結びつかなかった解答も少数見られました。